

ではないかと思ったのである。

話が大袈裟になってしまった。大学所蔵の「歴聖大儒像」6幅に戻ろう。これらは江戸初期の肖像画研究をする上で貴重である。そして画像は礼拝の用にあてられたが、江戸漢学教育の主流、儒学の象徴であり、テキストのビジュアル化でもある。展覧会の宣伝になるが、この機会に、教職員ならびに学生諸君、中央図書館の貴重書の展示室で、学問所の、湯島聖堂の遺宝を見ようではない

か。とくに学生諸君、筑波大学が伝えた江戸の教育的財宝に触れ、大学コレクションとその伝統に誇りを持ち、社会に出て欲しい。

あ、どうも、また悪い癖で私は図書館を利用して学生を教育している。さても、このような展示環境を得ることはよその大学図書館ではなかなかあり得ないこと、私は図書館を存分に活用させていただいている。

(もりや・まさひこ 芸術学系助教授)

シリーズ・電子ジャーナル(4)

より良い医療の実践に必要な電子ジャーナル

高田 彰

1. はじめに

「シリーズ・電子ジャーナル」も今回で4回目となるので、電子ジャーナル利用を現実的な課題と関連させて紹介してみたい。とりあえず今回は「良い医療」と電子ジャーナルはどのように関連するのであろうか? という視点で考えてみよう。

2. EBM (Evidence-Based Medicine)

「良い医療」とはどのような医療であるかを明確に定義することは容易ではないが、最近注目されているキーワードのひとつにEBM (Evidence-Based Medicine) がある。EBMは「入手可能で最良の科学的根拠を把握したうえで、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行なうための一連の行動指針」と理解される(福井次夫編『EBM 実践ガイド』医学書院, 1999年)。正しい科学的な根拠を基に医療を行なうというのはあたりまえとはいえ、実際には、偶然性の強い個人的な経験や観察、あるいは客観的なデータに基づかないエキスパートの直観に依存した医療から脱却することは容易ではない。体系的に観察・収集され、第三者によって客観的に評価されたデータに基づく医療への転換は、臨床疫学という学問領域の発展と共に浸透してきたものの、ここ数年はEBMという言葉の魅力もあり、医療の急激なパラダイム・シフトを引き起こしつつある。

このパラダイム・シフトを促している要因の一

つは、インターネットの発展と普及が医療の現場にも及んできたことにある。この半世紀にわたって世界中で実施されてきた膨大な数のランダム化比較試験の結果は、最も妥当性と信頼性の高い根拠を提供するデータとして医学情報データベースに蓄積されてきた。このデータを、インターネットの普及により、医療関係者は医療の現場において必要に応じて容易に利用することが可能となったのである。さらに電子ジャーナルの普及により、その情報の流れはより速く太いものとなった。たとえ夜中の2時であっても、病院情報システムの端末を利用すれば、必要な情報の検索を行い、必要な文献の全文を、付随する図表等を含めて入手し、直ちに患者さんの治療内容にその情報をいかすことが可能となる。

医療の現場において、必要な情報を迅速に入手し、利用できる情報環境を整えることは、良い医療を実践するために必須であり、各医療機関においても重要な課題となっていると言えよう。電子ジャーナルにより、EBMへの流れは今後より急速に進展することが予測される。

3. 電子ジャーナルの利点とその利用

電子ジャーナルは、印刷や郵送を必要とする冊子に比べていくつもの優位点がある。速報性に優れること、全文検索などの検索機能に優れること、関連論文の参照が容易であったり著者に電子

メールを送るなどの発展的な機能に優れること、得られたデータを電子的に再利用することが可能であること、などがあげられる。

電子ジャーナルを利用することは考えているよりもずっと簡単であり、筑波大学の図書館に設置されている電子図書館システムの端末を使えば苦勞がないし、図書館の職員が優しく使い方を教えてくれる。

4. 電子ジャーナルの提供形態とアクセス管理

電子ジャーナルの提供形態としては、出版元が独自のサービスとして提供する場合や、複数の各出版元を束ね、2次情報との連携をつけながら総合的なサービスとして提供する場合などがあり、多くの場合、基本的には契約を行なって利用する有料サービスとなっている。もちろん、無料で利用できるサービスも存在するが、利用できるジャーナルの数は限定されていたり、利用できる期間や利用可能な情報の範囲が限定されている場合が多い。しかし、筑波大学のキャンパスから電子ジャーナルを利用する場合は、図書館が面倒な契約等を一手に引き受けて、可能な限り利用者にやさしい利用環境を整備してくれているので、全くもって安心である。

通常正規の申請者のみが利用できるサービスでは、ユーザのアクセス管理を、パスワード方式またはIPアドレス方式で行なっている。パスワード方式では、ユーザーIDとパスワードの組み合わせによって、ユーザーを識別している。IPアドレス方式では、利用者の端末に割り当てられたIPアドレス(インターネット上の番地のようなもの)により、ユーザーを識別している。

筑波大学のキャンパスから電子ジャーナルを利用する場合は、基本的にはIPアドレス方式でユーザ管理が行なわれているので、各利用者がユーザーIDやパスワードを管理する面倒がないが、自宅から民間プロバイダーを介してアクセスしたりすると、利用者権限が認められずアクセスできないということになる可能性があるので注意が必要である。

5. 電子ジャーナルをさがす

a) リンク集を使う

電子ジャーナルを捜す場合には、電子図書館で整備しているリンク集を用いるのが簡単であり、利用可能となっている電子ジャーナルを簡単に把握できる。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/online-j/>

国内で作成されているリンク集としては、北海道大学図書系職員による研究会によって作成・維持されているリンク集

http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/online_journal/

が最も規模が大きい。これ以外に、

Links to the Top 500 Science Journals

<http://intl.highwire.org/top/journals.dtl>

Free Online Full-text Articles

<http://intl.highwire.org/lists/freeart.dtl>

などあるので、参照したいジャーナルが明らかである場合は、これらのリンク集を利用するのが便利である。

b) 統合的なサービスを使う

出版元等が提供する統合的なサービスの主なものとしては、以下のものがあり、一部については筑波大学として利用契約を結んでいるので、有効に利用されたい。

(1) HighWire Press <http://intl.highwire.org>

Stanford大学の提供するサービスで、無料で利用可能である。医学・生命科学関連のジャーナルも充実しており、特にEBM関連の記事が多く掲載されているBMJ(British Medical Journal)の電子ジャーナル版であるeBMJ <http://www.bmj.com/> もここに含まれており、電子ジャーナル入門には最適である。

(2) ScienceDirect <http://www.sciencedirect.com/>

ElsevierScience社とその関連出版社が作成している1100誌以上のジャーナルが提供されており、出版社が提供するサービスとしては最も規模が大きく、臨床医学関連のジャーナルも200誌程度と充実している。このサービスの利用方法は、『つくばね』25巻1号に詳しい。また2000年度は筑波大学として利用契約をしているので、全ての機能を利用することができる。

(9ページに続く)

(4ページより)

(3) IDEAL <http://www.idealibrary.com/>

Academic Press 社, W.B. Saunders 社, Churchill Livingstone 社によって提供されているサービス。医学・生命科学関連では80誌程度の利用が可能である。2000年度については, 利用契約を行なう予定であり, 全ての機能が利用できることになる。

(4) LINK <http://link.springer.de/>

Springer-Verlag 社とそのグループが提供するサービスで, 医学・生命科学関連では180誌程度の利用が可能である。筑波大学で購読している雑誌については, 全文の参照が可能である。

(5) InterScience

<http://www.interscience.wiley.com/>

John Wiley & Sons 社の提供するサービスで, 医学・生命科学関連では100誌程度の利用が可能である。筑波大学で購読している雑誌については, 全文の参照が可能である。

(6) FirstSearch Electronic Collections Online

<http://www.oclc.org/oclc/menu/eco.htm>

OCLC 社の提供するサービスで, 50の出版社による2200誌の情報を FirstSearch というデータベースとリンクさせて提供する。(下記, Ask Us 記事参照)

(7) CatchWord <http://www.catchword.co.uk/>
CatchWord 社が提供するサービスで, 32の出版社の390誌の情報を提供するが, 医学・生命科学関連では120誌程である。RealPage という専用のソフトウェアが用意されている。

(8) Current Contents Connect

<http://connect.isihost.com/>

ISI 社の提供するサービスで, Current Contents と連携し, 各出版社の提供する1次情報とのリンクがなされている。

(9) SilverLinker

<http://www.silverplatter.com/silverlinker/>

SilverPlatter 社の提供するサービスで, 自身では1次情報はもたず, 各出版社や各施設で提供している1次情報に直接リンクをつける機能を備えている。

(10) ProQuest <http://www.umi.com:8090/proquest/>

Bell & Howell Information and Learning 社(旧 UMI 社)の提供するサービスで, 保健医療関係の約400誌の情報を提供。

(たかだ・あきら 臨床医学系助教授)

ASK US としょかんミニガイド

FirstSearch について

Q: 図書館のホームページから論文検索をしようとしたら, FirstSearch というメニューがありました。これはどういうものですか?

A: FirstSearch というのはデータベースシステムの名称です。アメリカの OCLC (Online Computer Library Center) が提供しているオンラインデータベースシステムで, インターネットを通じて WWW ブラウザ上で, 人文, 社会, 経済, 科学, 工学, 医学など様々なジャンルの欧文データベースを検索することができます。

筑波大学からは, FirstSearch で提供されているデータベースのうち約50種類のデータベースをご利用いただけます。図書館内ではもちろん, 研究



図1 FirstSearch の案内ページ